

れふあれんす

三題噺

連載その二百十九

新潟大学附属図書館の巻

英語学習を支援するレファレンス



奥村圭子・金子亜寿沙

グローバル化が加速する国際社会において、大学では高度で豊かな語学力・コミュニケーション能力と異文化体験を身につけ、国際社会と地域社会に積極的に関与・貢献できるグローバル人材の育成が求められている。

新潟大学では、世界と地域を結びつけることのできる、高い専門性と国際教養をもったグローバル人材育成推進事業に取り組んでいる。新たな英語教育プログラムの展開や世界の大学・研究所とのグローバル・ネットワークを活用した学生の海外派遣に加えて、図書館では、グローバル・コミュニケーションを強力にサポートする役割を担っている。

2013(平成25)年4月、リニューアルした中央図書館のラーニング・コモンズの一角に外国語学習支援スペース「FL-SALC(エフエル-サルク)」^{注)}(Foreign Language Self-Access Learning Center)を設置し、外国語学習教材を備え、語学の自主学習をサポートし、留学生と外国語で楽しく会話することができる「外国語チャット」等を企画している。語学のグループ学習、英語の学習相談、チャットの参加など利用状況は活発である。

本稿では、「FL-SALC」に配置した「英語学習アドバイザー」が受けた、利用者からの相談や依頼が多い事例を紹介する。



▲リニューアルした中央図書館の外観

その1

資格試験に挑戦したいが、何から始めればよいか？

TOEIC®に挑戦しようとする学生から、「スコアを上げるために何から手をつけたらよいかわからない。また資格試験の対策本や問題集は多く出版されているが、どの本を学習したらよいのか教えてほしい」という相談を受けた。

はじめに、本番と同様に時間を計ってテスト1回分を行い、テストの構成や問題タイプを把握すること、本番に近いレベルのテストにおける自分の現状スコアを知ることが大切である。基本の1冊として、テストを作成している機関が作成した問題が本番同様の形式で入っている問題集である『TOEICテスト新公式問題集』(Educational Testing Service著;国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会編、国際ビジネスコミュニケーション協会TOEIC運営委員会、2005.12-)をおすすめした。実際に問題を解くことで、時間配分の感覚が掴め、自分の苦手とする問題タイプや強化すべき課題も見えてくるので、その後取り組むべき問題集も選びやすくなる。また、本物に近いクオリティを持つ公式問題集を使って単語を覚える、文法事項を確認する、付属CDの音声を使ったトレーニングを行う、といった学習が、スコアアップに非常に効果的な学習法であるため、多くの学生にすすめている。

その2

会話をアップさせる学習法を教えてください

大学在学中に英語を話せるようになりたい、といった学生の相談も多い。海外旅行に行っても困らないくらいの会話を指すのか、国際学会で発表して質疑応答に対応できるくらいになりたいのか、あるいはTOEFL®のスピーキング・セクションのように論理立てて物事を話せるようになりたいのか、目的によって学習内容は異なってくる。いずれのレベルにせよ、英語を話す機会の乏し

い日常生活の中で、一人でできる「話すための英語学習」は、基本的な文法の習得を前提とした上で、表現や単語をインプットしつつ、それを自分の言いたいことの表現に取り入れて話せるようにトレーニングをしていくことがオーソドックスであるが、有効な方法である。

基本的な文法に自信がない場合は、高校までの文法をおさらいできる文法書や、大学受験用の文法問題集を復習する必要がある。おさらいしやすい資料として『総合英語 Forest』（塙タカユキ [ほか] 著、桐原書店、2009）や、それに準拠した演習問題を解きながら理解を確認できる『Forest（フォレスト）6th edition 解いてトレーニング：完全準拠問題集』（石黒昭博監修、桐原書店、2009）をすすめた。

表現や単語をインプットするためには、多数の書籍、出版物があるので、自分のレベルや目標によって使用するツールを選択することになる。加えて、トレーニングと同時進行で手軽にできるものの一つとして、NHKラジオの英語講座の視聴をすすめている。毎日同じ時間にラジオの前で聴くことを、自分の生活の一部として習慣化できるとよい。聴き逃したとしても、NHKの語学番組ホームページ（<https://cgi2.nhk.or.jp/gogaku/index.cgi>）で前週の放送をストリーミングで聴くことができる。インターネット上の学習ツールとしてPCやタブレットでも気軽に学習でき、何度も聴いて復習することもでき便利である。

自分の言いたいことを表現するための学習法は、普段から自分の生活のあらゆる場面で、英語で言ったらどのような表現になるのかを意識したり、毎日少しでも英語で日記をつけてみたりすることが有効である。参考資料として、『英語で日記を書いてみる：英語力が確実にUPする』（石原真弓著、ベレ出版、2001）や『3文で書いてみよう！はじめての英語日記』（吉田研作監修・著、白井恭弘著、コスモピア編集部編、コスモピア、2007）などを紹介した。さらに、書いた日記を声に出して読むと、自分の気持ちと英語表現が一体化してきて、英語を話す回路を作ること役立つのですべてすすめている。

その3

飽きずに楽しく英語を身につけるには
どうしたらよいか？

英語の苦手意識の強い学生から、学習へのモチベーションが上がらないことについて相談を受けた。

普段の生活の中で楽しく英語を身につける方法はいくつかある。例えば、音楽が好きであれば、自分の好きな洋楽の曲と一緒に歌う、映画や海外ドラマを観るのが好きであれば、英語の音声と字幕を使って単語や表現を学びながら、自分も一緒にモノマネしたりすることで、リスニングやスピーキングのスキルを強化することができる。自分の好きな曲の歌詞や映画のスク립トなどを、

インターネットで検索するとたくさんヒットするので参考になる。ただし、個人が作った正確さに欠けるものや、別サイトへ誘導するリンクや広告には注意が必要だ。

図書を利用して学習する場合、自分の興味のあるものをたくさん読んでいく「多読」という学習法がおすすめだ。「辞書は引かない」「わからないところはとばす」「つまらなければやめる」の多読三原則に従って、知らない単語がほとんどないような易しいもの、自分がおもしろいと思うものを読んでいく方法である。多読を続けていくことによって、一語一語日本語に訳さなくても英語を英語のまま理解できるようになっていく。楽しいから続けられ、続けられるからこそ次第に英語力が伸びていくということになる。具体的な方法や効果を実感できる資料として、『100万語多読入門：辞書を捨てれば英語が読める：めざせ！100万語』（古川昭夫、伊藤晶子共著、コスモピア、2005）などのガイド書、また隔月で刊行される『多読多聴マガジン』（コスモピア）という雑誌を紹介した。自然と語彙力や表現力がつき、英語をそのまま理解できるようになることは、読むだけではなく、聞く、話す、書くといったスキルアップにも効果的である。多読用の図書としては、単語数によるレベル別の洋書シリーズ Penguin ReadersやOxford bookworms libraryなどをすすめている。英語の読解力を客観的に確認でき、自然とステップアップすることができる。



▲FL-SALCの活動の様子

注) 大学図書館における先進的な取り組みの実践例
「ラーニング・コモンズを活用した外国語学習支援スペース（FL-SALC）の整備 教育組織等と連携した学修・教育支援の取り組み（新潟大学）」
http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341374.htm
(最終更新日：2014年7月28日)
(おくむら けいこ：新潟大学教育・学生支援機構教育支援センター特任助教、かねこ あずさ：新潟大学附属図書館)
[NDC9：015.2 BSH：レファレンス ワーク]